

平成26年7月15日

平成26年度病害虫発生予報第4号

長崎県病害虫防除所長

【予報の概要】

農作物名	病害虫名	発 生 程 度	
		現 況	予 想
早期水稲	いもち病(穂いもち)(防除情報第4号継続) 紋枯病 穂吸汁性カメムシ類	やや少 やや少	やや多 やや少 並
普通期水稲	いもち病(葉いもち) 紋枯病 縞葉枯病 セジロウンカ トビイロウンカ(防除情報第5号) コブノメイガ(防除情報第5号)	並 並 並 やや少 並 やや少	並 並 並 並 やや多 並
大豆	ハスモンヨトウ		並
いちご (育苗床)	うどんこ病(防除情報第6号) 炭疽病(<i>Glomerella cingulata</i>) (注意報第1号) 輪斑病 ハダニ類	やや多 多 並 やや多	やや多 多 並 やや多
アスパラガス	アザミウマ類	やや少	やや少
かんきつ	かいよう病 黒点病 ミカンハダニ チャノキイロアザミウマ	少 やや少 並 並	少 並 並 並
びわ	がんしゅ病 灰斑病 ナシヒメシンクイ	並 やや多 並	並 やや多 並
なし	ナシヒメシンクイ	並	並
ぶどう	べと病	並	並
果樹共通	果樹カメムシ類	並	並
茶	炭疽病 チャノキイロアザミウマ チャノコカクモンハマキ チャノホソガ カンザワハダニ チャノミドリヒメヨコバイ クワシロカイガラムシ	やや少 やや多 やや少 やや少 並 やや多 やや多	並 やや多 並 並 並 やや多 やや多

【発生予報】 本文の()内は平年値

早期水稲

1. いもち病(穂いもち)

平成26年7月1日付け**病害虫発生予察防除情報第4号**を継続。

なお、その後の発生状況については以下のとおりである

(1) 発生状況

ア 7月上旬の巡回調査(38筆)の結果、葉いもちの発病株率は6.5% (0.7%)、発生圃場率は28.9% (15.1%)であった。

イ 7月3半旬の県予察圃場(諫早市、無防除)調査の結果、葉いもちの発生を認めなかった(発生を認めない)。

ウ 出穂期前後にあたる7月上旬の降水量は平年より多かった。また、向こう1か月の降水量は平年並が多い見込みである。

2. 紋枯病

(1) 予報内容

発生程度 やや少

(2) 予報の根拠

ア 7月上旬の巡回調査(38筆)の結果、発病株率は0.1% (0.3%)、発生圃場率は2.6% (10.7%)であった。

イ 7月3半旬の県予察圃場(諫早市、無防除)調査の結果、発病株率は19.0% (15.9%)であった。

3. 穂吸汁性カメムシ類

(1) 予報内容

発生程度 並

ア 7月上旬のイネ科雑草におけるすくい取り調査(37地点)の結果、捕虫網による10回すくい取りあたり虫数は5.8頭(12.2頭)であった(表)。

イ 発生地点率については、いずれの種についても平年並であった。

表 イネ科雑草でのすくい取り調査における虫数の推移

種類別	10回すくい取りあたり虫数						発生地点率	
	H22	H23	H24	H25	平年	H26	平年	H26
ホリハリカメムシ	0.1	0.5	0.7	0.9	0.5	0.3	60.9	42.9
クモヘリカメムシ	0.1	0.2	0.4	0.8	0.2	0.5	13.1	17.9
シラホシカメムシ	0.1	0.1	0.4	0.6	0.2	0.1	34.1	42.9
アカスジカスミカメ	2.6	4.5	9.0	18.4	11.1	4.2	77.9	75.0
ミナミアオカメムシ	0.0	0	0	0.0	0.0	0.0	3.0	3.6
計	2.8	5.3	9.8	21.1	12.2	5.8		

注) 数値は10回すくい取りあたりの虫数

普通期水稲

1. いもち病(葉いもち)

(1) 予報内容

発生程度 並

(2) 予報の根拠

- ア 7月上旬の巡回調査(83筆)の結果、発病株率は0.1%(0.0%)、発生圃場率は2.4%(1.8%)であった。
- イ 7月3半旬の県予察圃場(諫早市、無防除)調査の結果、発生を認めなかった(発生を認めない)。
- ウ 7月以降、葉いもちの感染に好適な条件を満たした日が、7月4日に対馬市鰐浦、壱岐市芦辺、壱岐市石田、7月8日に対馬市厳原、対馬市美津島、壱岐市石田、西海市大瀬戸で、7月14日に壱岐市芦辺、北松浦郡小値賀で認められた(葉いもち感染好適条件判定モデルによる。詳細はホームページを参照)。
- エ 向こう1か月の降水量は平年並または多い確率40%であり、本病の発生に好適である。

(3) 防除上注意すべき事項

- ア 余り苗、補植苗は発病の伝染源となるので早めに処分する。
- イ 葉いもちの急性型病斑が見られた場合は早急に防除を行う。

2. 紋枯病

(1) 予報内容

発生程度 並

(2) 予報の根拠

- ア 7月上旬の巡回調査(83筆)の結果、発生を認めなかった(発病株率0.0%、発生圃場率0.6%)。
- イ 7月3半旬の県予察圃場(諫早市、無防除)調査の結果、発生を認めなかった(発生を認めない)。

3. 縞葉枯病

(1) 予報内容

発生程度 並

(2) 予報の根拠

- ア 7月上旬の巡回調査(83筆)の結果、発生を認めなかった(発病株率0.0%、発生圃場率1.8%)。
- イ 7月3半旬の県予察圃場(諫早市、無防除)調査の結果、発生を認めなかった(発生を認めない)。
- ウ 7月上旬の巡回調査(83筆)の結果、ヒメトビウンカの株当たり虫数は0.0頭(0.0頭)、発生圃場率は28.9%(20.1%)と平年並であった。
- エ 7月3半旬の県予察圃場(諫早市、無防除)調査の結果、ヒメトビウンカの株当たり虫数は0.3頭(0.0頭)、寄生株率は18.0%(1.5%)であった。

(3) 防除上注意すべき事項

- ア 発病株は伝染源となるので見つけ次第抜き取る。
- イ ヒメトビウンカの圃場での発生に注意する。

4. セジロウンカ

(1) 予報内容

発生程度 並

(2) 予報の根拠

- ア 7月上旬の巡回調査(83筆)の結果、セジロウンカの株当たり虫数は0.1頭(0.8頭)、発生圃場率は49.4%(68.2%)であった。
- イ 7月14日の県予察圃場(無防除)調査の結果、成虫主体で株当たり虫数は2.3頭(2.8頭)、寄生株率は86.0%(64.8%)であった。
- ウ 7月上旬までの飛来量は少なかったが、7月13~14日にかけてまとまった飛来があった。

5. トビイロウンカ

平成26年7月15日付け、**病害虫発生予察防除情報第5号**による。

6. コブノメイガ

平成26年7月15日付け、**病害虫発生予察防除情報第5号**による。

大豆

1. ハスモンヨトウ

(1) 予報内容

発生程度 並

(2) 予報の根拠

フェロモントラップ(諫早市)の誘殺量は平年並であった(図)。

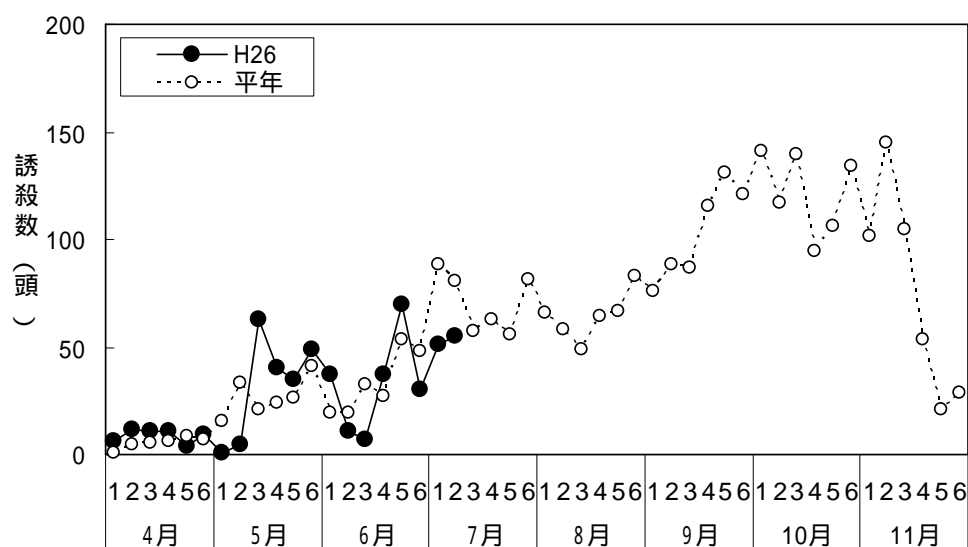


図 ハスモンヨトウのフェロモントラップにおける誘殺状況(諫早市小船越) (月・半旬)
平年: H16~H25年の平均値(最大・最小値除く)

(3) 防除上注意すべき事項

- ア 圃場の見回りを徹底し、白変葉が散見され始めたら早急に防除を行う。
- イ 老齢幼虫になると薬剤の効果が低下するので若齢幼虫期に薬剤散布する。

いちご

1. うどんこ病

平成26年7月15日付け、**病害虫発生予察防除情報第6号**による。

2. 炭疽病 (*Glomerella cingulata*)

平成26年7月15日付け、**病害虫発生予察注意報第1号**による。

3. 輪斑病

(1) 予報内容

発生程度 並

(2) 予報の根拠

7月上旬の巡回調査(33筆)の結果、発病株率は6.1%(5.5%)、発生圃場率は

54.5% (39.2%)であった。

4. ハダニ類

(1) 予報内容

発生程度 やや多

(2) 予報の根拠

7月上旬の巡回調査(33筆)の結果、寄生株率は3.5%(1.2%)、発生圃場率は24.2%(12.5%)であった。

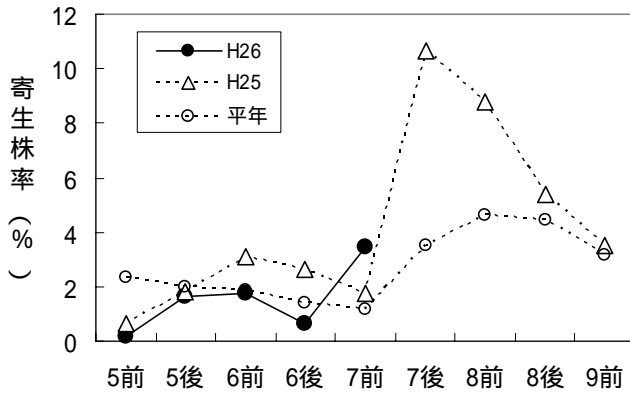


図 ハダニ類 寄生株率の推移

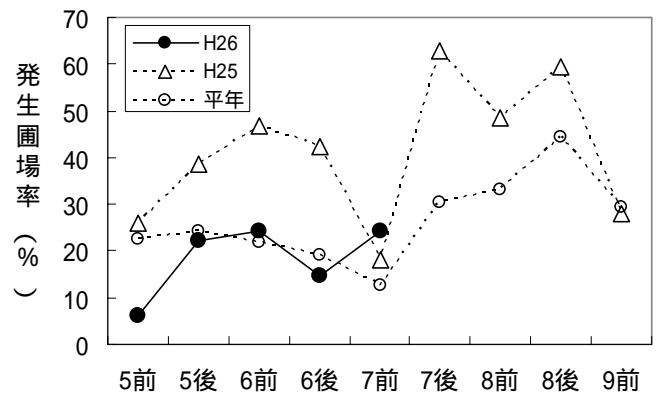


図 ハダニ類 発生圃場率の推移

(3) 防除上注意すべき事項

- ア 葉裏に多く寄生するので、薬剤散布は葉液が葉裏に十分付着するように丁寧に散布する。
- イ 薬剤感受性が低下しやすいので、同一薬剤は連用しない。

アスパラガス

1. アザミウマ類

(1) 予報内容

発生程度 やや少

(2) 予報の根拠

7月上旬の巡回調査(12筆)の結果、払い落とし虫数(10.5cm×22.5cmの白色板に5回×10ヶ所)は7.9頭(過去7カ年平均11.4頭)、発生圃場率は50.0%(過去7カ年平均76.6%)であった。

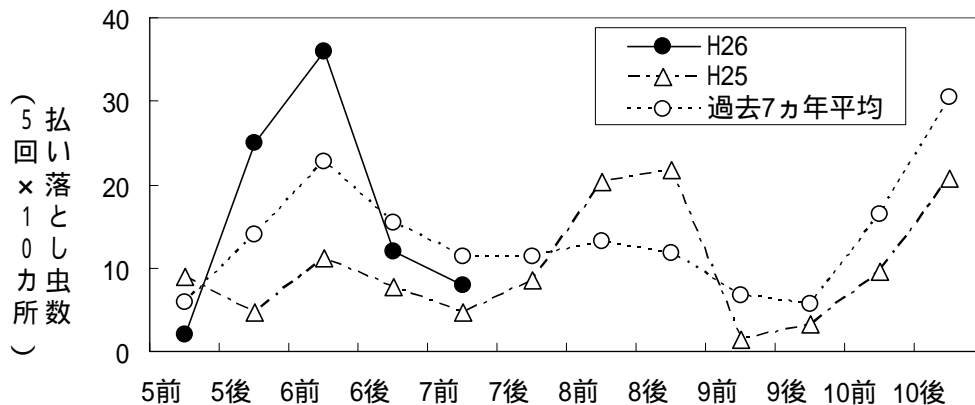


図 アザミウマ類 払い落とし虫数の推移(巡回調査)
払い落とし虫数は成虫、幼虫の合計

かんきつ

1. かいよう病

(1) 予報内容

発生程度 少

(2) 予報の根拠

7月上旬の巡回調査(36筆)の結果、発病葉率は0.0%(0.5%)、葉の発生圃場率2.8%(23.1%)であった。果実での発生は認めなかった(発病果率0.1%、発生圃場率6.1%)。

2. 黒点病

(1) 予報内容

発生程度 並

(2) 予報の根拠

ア 7月上旬の巡回調査(36筆)の結果、発病を認めなかった(発病果率1.3%、発生圃場率15.5%)。

イ 向こう1か月の降水量は、平年並または平年に比べ多い見込みであり、本病の発生に好適と考えられる。

3. ミカンハダニ

(1) 予報内容

発生程度 並

(2) 予報の根拠

7月上旬の巡回調査(36筆)の結果、寄生葉率は4.2%(9.1%)、発生圃場率は47.2%(45.6%)であった。

4. チャノキイロアザミウマ

(1) 予報内容

発生程度 並

(2) 予報の根拠

ア 7月上旬の巡回調査(36筆)の結果、果梗部の被害果率0.3%(0.8%)、発生圃場率11.1%(12.7%)であった。

イ 黄色粘着トラップ(諫早市)による誘殺量は、平年並で推移している(図)。

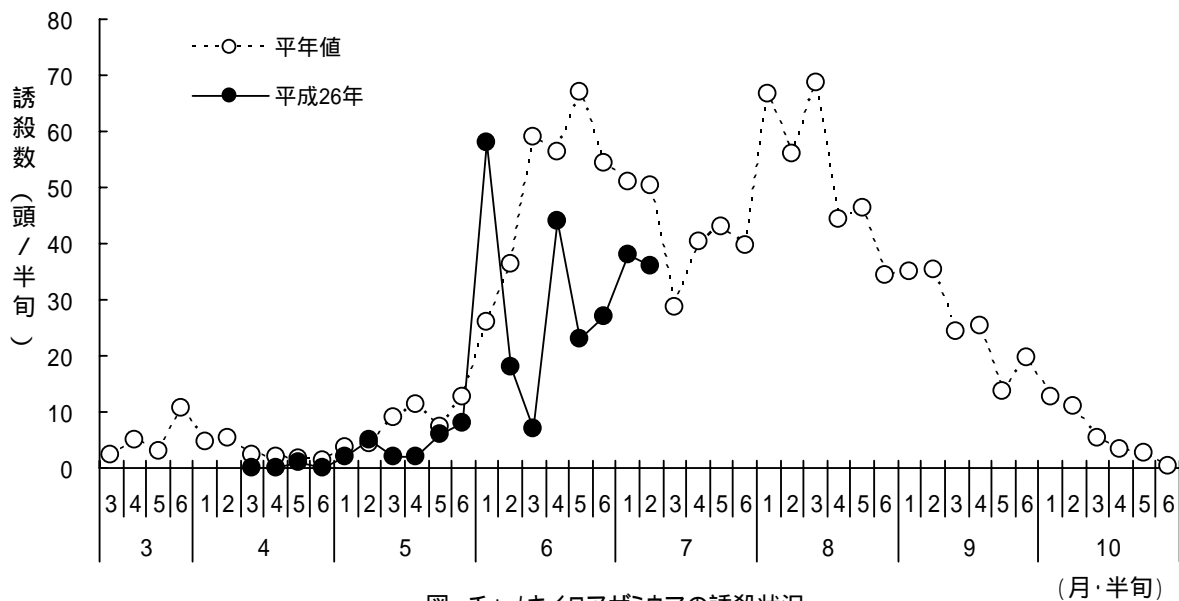


図 チャノキイロアザミウマの誘殺状況
(諫早市小船越町:黄色粘着トラップ)

(3) 防除上注意すべき事項

ア 気象庁アメダスの気温データを用いて有効積算温量により算出した発生ピーク予測日を下表に示した。

イ 茶、かき、ぶどう及びビヌマキなどから移動して加害することがあるので、それらでの発生にも注意する。

有効積算温度計算シミュレーションによるチャノキロアザミウマ成虫の発生ピーク予測日

地点	長崎	佐世保	大瀬戸	口之津	平戸	長崎 (平年値)
第4世代	7/18	7/20	7/27	7/20	7/30	7/20
" (前年)	7/15	7/17	7/25	7/16	7/29	-
第5世代	8/4	8/6	8/14	8/6	8/17	8/5
" (前年)	8/1	8/3	8/12	8/2	8/16	-
第6世代	8/21	8/23	9/1	8/23	9/5	8/22
" (前年)	8/16	8/18	8/28	8/19	9/1	-
標高(m)	27	4	43	10	58	27

注1:発生ピーク予測日は気象庁アメダスの気温データを用いて有効積算温量により算出した。なお、積算には2014年7月13日までは観測値を、以降は平年値を使用した。

注2:同一地区内でも、山間部では予測発生ピーク日が異なる場合があるので注意する。また、今後の気象条件により予測日は前後する場合がある。

注3:表中の発生ピーク予測日の5日前から発生ピーク予測日の期間に薬剤散布をすると防除効果が高い。なお発生が多い園では、1果当たり寄生虫数が0.1頭に達する前に防除を行う。

びわ

1. がんしゅ病

(1) 予報内容

発生程度 並

(2) 予報の根拠

7月上旬の巡回調査(10筆)の結果、発病枝葉率は1.6%(1.4%)、発生圃場率は40.0%(43.8%)であった。

2. 灰斑病

(1) 予報内容

発生程度 やや多

(2) 予報の根拠

ア 7月上旬の巡回調査(10筆)の結果、発病枝葉率は44.4%(35.9%)、発生圃場率は100%(97.5%)であった。

イ 向こう1か月の降水量は、平年並または平年に比べ多い見込みであり、本病の発生に好適と考えられる。

(3) 防除上注意すべき事項

発生圃場では新葉の感染防止および果実腐敗の発生抑制のため、薬剤防除を行い病原菌密度の低下を図る。

3. ナシヒメシンクイ

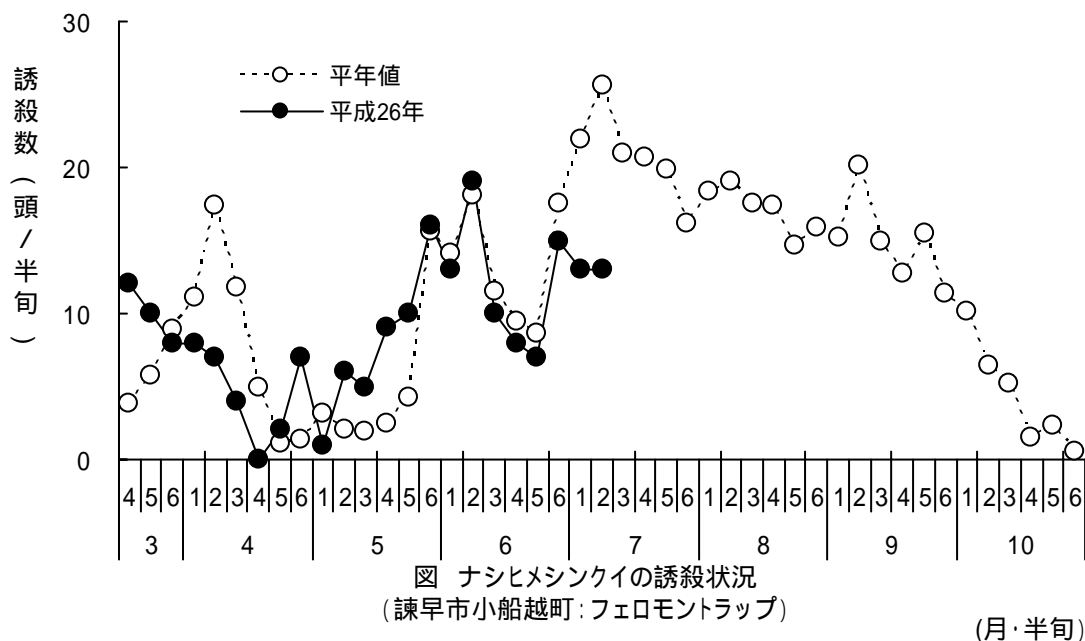
(1) 予報内容

発生程度 並

(2) 予報の根拠

ア 7月上旬の巡回調査(10筆)の結果、枝葉への寄生を認めなかった(寄生枝葉率0.0%、発生圃場率0.0%)であった。

イ フェロモントラップ（諫早市）の誘殺量は、概ね平年並で推移している（図）。



なし

1. ナシヒメシンクイ

(1) 予報内容

発生程度 並

(2) 予報の根拠

びわの項参照。

ぶどう

1. ベと病

(1) 予報内容

発生程度 並

(2) 予報の根拠

7月上旬の巡回調査（12筆）の結果、発病葉率は0.2%（2.2%）、発生圃場率は41.7%（28.1%）であった。

果樹共通

1. カメムシ類

(1) 予報内容

発生程度 並

(2) 予報の根拠

ア フェロモントラップの誘殺量は、諫早市小船越と西海市西彼町では平年並に、諫早市多良見町と南島原市有家町では平年より少なく推移している（下図）。

イ 7月上旬のかんきつ、びわ及びなしにおける巡回調査の結果、圃場への飛来を認めなかった。

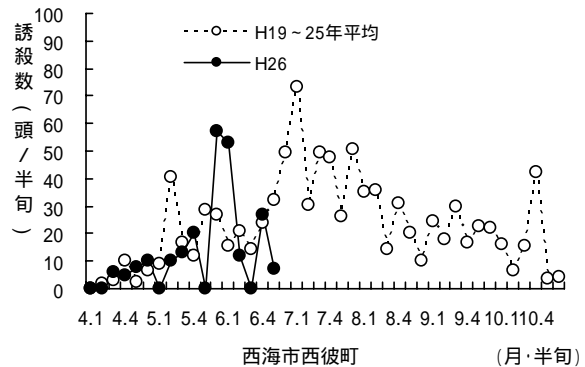
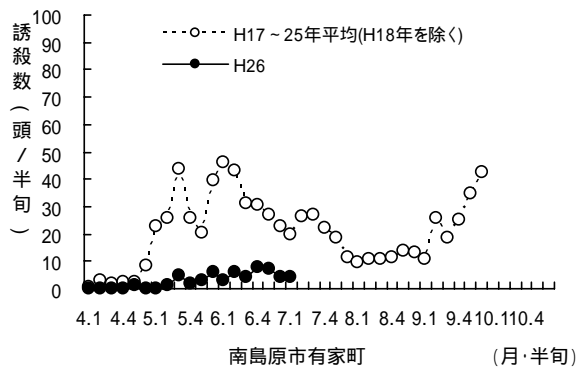
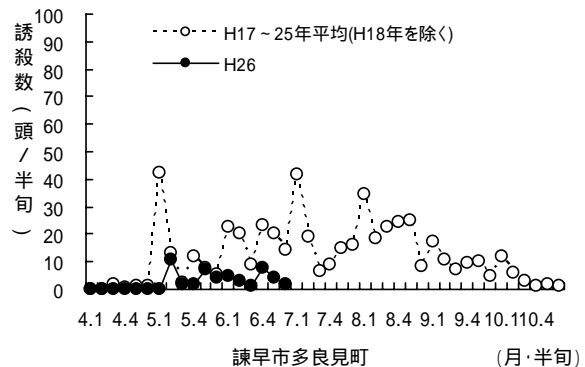
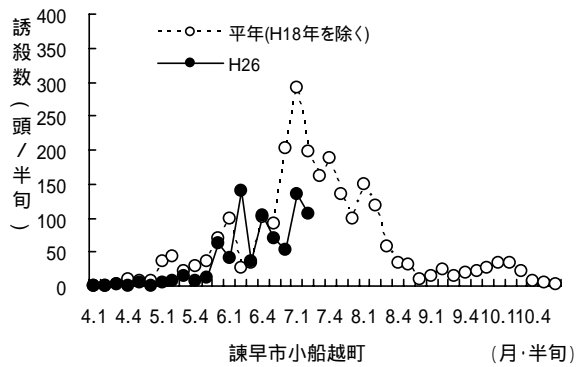


図 チャバネアオカメムシ・ツアアオカメムシの誘殺状況(黄色コガネコール)

茶

1. 炭疽病

(1) 予報内容

発生程度 並

(2) 予報の根拠

ア 7月上旬の巡回調査(20筆)の結果、1㎡あたり発病葉数は0.5枚(3.0枚)、発生圃場率は45.0%(53.1%)であった。

イ 向こう1ヶ月の降水量は平年並か多い見込みであり、本病の発生に好適である。

2. チャノキイロアザミウマ

(1) 予報内容

発生程度 やや多

(2) 予報の根拠

7月上旬の巡回調査(20筆)の結果、たたき落とし虫数(A4版トレイ)は16.8頭(11.0頭)、発生圃場率は100%(79.4%)であった。

(3) 防除上注意すべき事項

薬剤感受性低下防止のため、同一系統の薬剤は連用しない。

3. チャノココカクモンハマキ

(1) 予報内容

発生程度 並

(2) 予報の根拠

ア 7月上旬の巡回調査(20筆)の結果、発生を認めなかった(1㎡当たり巻葉数0.2枚、発生圃場率11.9%)。

イ フェロモントラップによる誘殺量(農林技術開発センター茶業研究室調査)は、7月1半旬にピークが見られ、平年よりやや多く推移している(図)。

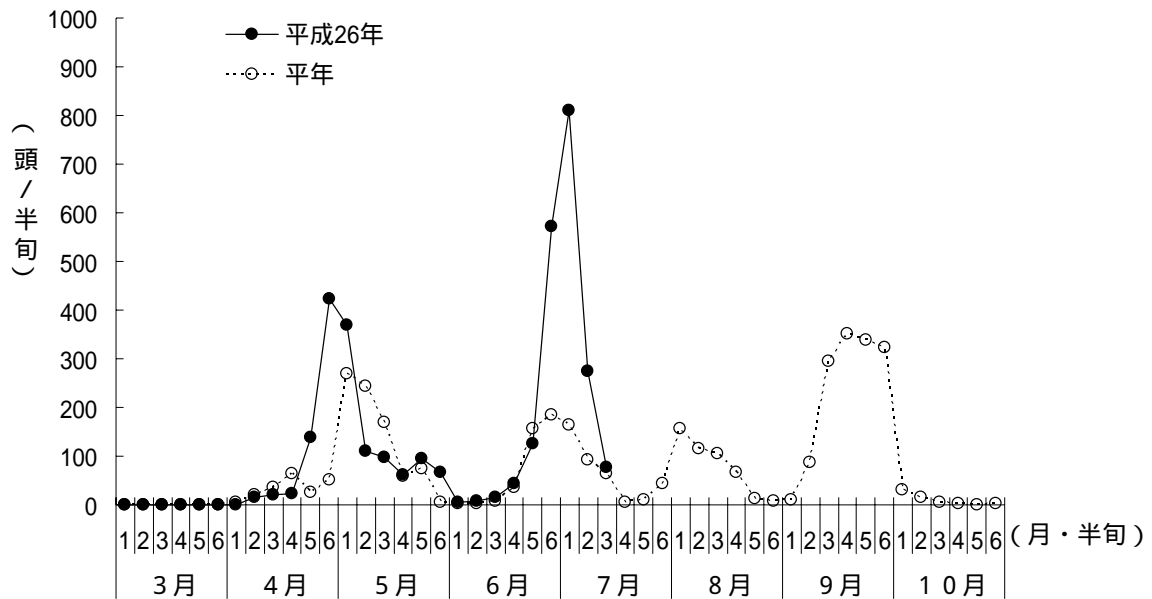


図 茶ノココクモンハマキの誘殺状況 (東彼杵：フェロモントラップ)

4. チャノホソガ

(1) 予報内容

発生程度 並

(2) 予報の根拠

ア 7月上旬の巡回調査(20筆)の結果、発生を認めなかった(1㎡当たり巻葉数0.1枚、発生圃場率7.5%)

イ フェロモントラップによる誘殺量(農林技術開発センター茶業研究室調査)は、6月2半旬にピークが見られやや多かったが、その後は平年並で推移している(図)。

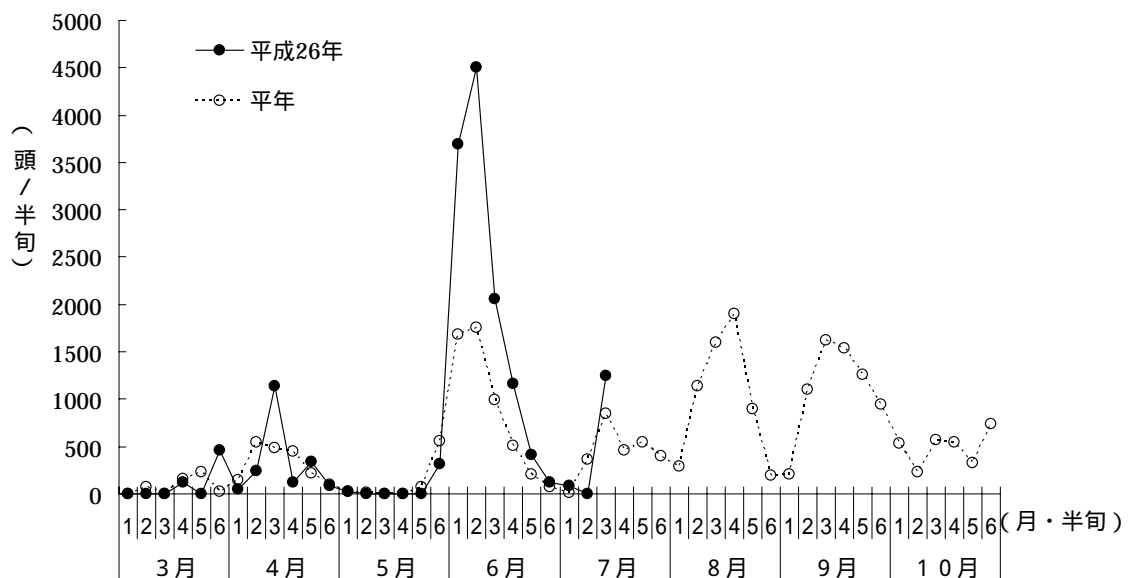


図 茶ノホソガの誘殺状況 (東彼杵：フェロモントラップ)

5. カンザワハダニ

(1) 予報内容

発生程度 並

(2) 予報の根拠

7月上旬の巡回調査(20筆)の結果、寄生葉率は0.2%(0.2%)、発生圃場率は

10.0% (8.8%)であった。

6. チャノミドリヒメヨコバイ

(1) 予報内容

発生程度 やや多

(2) 予報の根拠

7月上旬の巡回調査(20筆)の結果、たたき落とし虫数(A4版トレイ)は4.6頭(2.0頭)、発生圃場率は80.0%(53.8%)であった。

(3) 防除上注意すべき事項

薬剤感受性低下防止のため、同一系統の薬剤は連用しない。

7. クワシロカイガラムシ

(1) 予報内容

発生程度 やや多

(2) 予報の根拠

7月上旬の巡回調査(20筆)の結果、寄生株率は15.3%(6.3%)、発生圃場率は60.0%(38.8%)であった。

(3) 防除上注意すべき事項

ア 1回脱皮してロウ質のカイガラを作りはじめると薬剤の効果が低下するので、下表のふ化盛期予測日を参考にし、現地調査に基づき適期に防除する。

イ 株内の枝や株元に薬液がかかるように十分量散布する。

表 「有効積算温度則による防除適期予測法」によるクワシロカイガラムシのふ化盛期予測日(第2世代)

地区名	標高(m)	平成26年	平成25年	平成24年	平年 (過去9ヵ年)
東彼杵町太の原	360	7/29	7/21	7/25	7/25
五島市上大津	77	7/16	7/13	7/17	7/14

注1：方法は「有効積算温度則による防除適期予測法(農林技術開発センター茶業研究室)」により、7月9日時点で予測した。

注2：使用する気温データは、農林技術開発センター茶業研究室(東彼杵町)の測定値及びアメダスデータ(五島市)を使用し、予測日以降の気温データは平年値を使用した。

なお、第1世代のふ化盛期を、東彼杵町太の原は5月21日、五島市上大津は5月10日とした。

注3：同一地区内でも標高や土地条件でふ化盛期日が異なるので注意する。

6月1日から8月31日までの3ヶ月間を「農薬危害防止期間」と定め、農薬事故を防止する運動を実施しています。

病害虫防除所の発行する情報の入手は、インターネットをご利用ください。

「長崎県病害虫防除所ホームページ」 アドレス：<http://www.jppn.ne.jp/nagasaki/>

この情報に関するお問い合わせは、電話でお願いします。

長崎県病害虫防除所 TEL：0957-26-0027